

将来の夢に向かつて

東部小・6 鈴木 聡真

ぼくの将来の夢は建築士になることです。建築士は、家を建てるときに必要になる、どんな建物になるかを正確に示した設計図を作ることなどをする仕事です。この仕事は、自分がゼロから、外観や内装、間取りなどを考えた建物が形になり、その後十数年もしくはそれ以上も、世に残っていくのが、み力に感じます。幼いころから建物を見たり、考えたりするのがとても好きで、この仕事に興味をもちました。

さらに、建築士について調べたり、東京オリンピック、パラリンピックの競技場建設のドキュメンタリー番組を見たりして、建築士になるためにぼくが大切だと感じたことは、建築に関わる人との良い信らい関係を築くことと、目標達成のため、工夫し計画的に進めることです。

将来、建築に関わる人との良い信らい関係を築くことができるようにぼくがしていることや心がけていることが四つあります。

一つ目は、あいさつをしつかりすることです。低学年のときは、近所の人にあいさつをするのがこわかったのですが、なかなかあいさつをすることができていませんでした。しかし、一度勇気を出してあいさつをしてみました。すると、学校帰りに朝あいさつをした近所の人が笑顔で、

「おかえり。」

と言ってくれて、とてもうれしく思い、あいさつは人の輪を広げる

ものだと思いました。それからは、自分から積極的にあいさつをしています。

二つ目は、人の話をよく聞くことや、相手の立場になって考えることです。学校で授業を受けるとき、発言をした人がなぜそう考えたのか、またどのようなことを言いたいのかを考えながら聞いています。そうすることで、相手の考えを深く理解することができ、自分の視野を広げることができます。

三つ目は、礼ぎを守ることです。おぼんのお参りで祖父母の家に行く前に、かみの毛を切り、いつもよりきちんとしたえりのついた服を着て、身だしなみを整えました。礼ぎを守るということは、相手に敬意をはらうだけでなく、自分の気持ちを改めることもできると考えています。

四つ目は、時間や約束を守ることです。習い事に行くときは、時間に余ゆうをもつて行くようにしています。そうすると、気持ちを落ち着かせることができたり、しつかりと準備し、集中して習い事に取り組んだりすることができます。

次に、目標を達成するために、工夫をして物事を計画的に進めることが大切だと気づいた出来事が二つあります。

一つ目の出来事は、夏休みの宿題のリコーダーの練習です。課題の曲は聞いたことはありませんでしたが、テンポが速く、なかなか最初から最後まで通すことができませんでした。そこで考えたのは練習方法を変えることでした。それまで練習するときは、いつも曲の最初から演奏し、同じところで間ちがえて、最初の方ばかり上達して、間ちがえていたところは、全く上達しませんでした。それから、間ちがえたところから何度も練習することにしました。その結果、ま

んべんなく上達し、曲の最初から最後まで通して演奏することができるようになりました。何か困ったり、上手くないときは一度立ち止まったり、ふり返ったりして、やり方を工夫すると良い結果に結びつくと感じました。

二つ目の出来事は、夏休みなので何か新しいお手伝いを始めようと考え、始めたお皿洗いです。ある日、昼にシンクを見てみると二、三枚の食器があつて、夜ご飯を食べた後に洗えばいいかなと思つていましたが、夜ご飯を食べた後には、忘れてしまつていました。そのことにねる前に気づきましたが、夜おそかったので明日の朝に洗おうと思ひ、そのままねてしまいました。そして、翌朝になつていざやろうと思つてシンクに向かうと、予想以上にお皿の量が多く、前日よりいやな気持ちになりました。それから洗うと、とても時間がかかりました。このような出来事から何事でも後回しにせず、きちんと計画性をもつて行動することが大切だと思ひました。

ぼくがここまで書いてきたことは、当たり前前のようなことですが、それを続けていくことは、とても難しいことだと思つています。しかし、少しずつでも積み重ねていくことが建築士になる夢や目標をかなえたり、達成したりすることには必要だと考えています。なので、ぼくは大きな夢に向かってどんな小さなことでも一つ一つ丁寧にやっつていこうと思ひます。